

李王家紋のボンボニエール

西洋由来のボンボニエール、日本では明治22年(1889)の大日本帝国憲法発布式から皇室御慶事の引出物として登場し、日本皇室独自の工芸品として発展してきた。同時期朝鮮半島でも李王家の工芸品としてボンボニエールが出現した。李王家紋付のボンボニエールには、「漢美」「美」の刻印を有するものが多く見られる。「漢美」【図2】とは漢城美術品製作所、「美」【図4】は李王家美術館製作所のことである。

ソウルの旧名である「漢城」を冠した「漢城美術品製作所」は、1909年大韓帝国時代に設立された王室御用の美術品製作所である。日本が併合した後の1911年からは李王職の直営となり「李王職美術品製作所」と名を改めた。製作所の作品は「朝鮮固有の美術工芸品を復活し、いわゆる純朝鮮趣味の発揮と其改良発達を図らんとする」(山口豊正『朝鮮の研究』)ものであり、「鑄物、打物等の金属製類も総て周、漢を模して」(『京城繁昌記』)いた。ボンボニエールも李王家が代々儀式の際に使用してきた器物を象っている。

そこには日本の関与があったにせよ、伝統工芸を後世へ伝えようとする李王家のパトロネージュを見ることが出来るのである。

(学芸員 長佐古美奈子)



図1 鶴斗形ボンボニエール
李王家紋 銀製 高4.0



図2 (刻印)「漢美」



図3 注口付扁壺形ボンボニエール
李王家紋 銀製 高5.0



図4 (刻印)「美」

リニューアルオープン記念展覧会

「学習院コレクション 華族文化 美の玉手箱 ―芸術と伝統文化のパトロネージュ」 (3月14日～5月17日) 開催報告

霞会館記念学習院ミュージアムのリニューアルオープン記念展開幕に際し、3月13日に開館セレモニーが催され、彬子女王殿下、霞会館理事長鷹司尚武氏、耀英一学習院長、遠藤久夫学習院大学学長によりテープカットが行われました。内覧会にはプレスを含め約600人が来館、翌初日には開場を待つ人々の姿も見えての好発進となりました。その後も連日多くの方々が来館し、卒業式と入学式には学生と保護者の皆様に、また「オール学習院の集い」の日には在校生・卒業生をはじめ数多くの方々に、新しい館の姿をお披露目することができました。

「学習院ミュージアム講座」と名を変えた講座は記念すべき第100回を数え、今上陛下ご来臨のもと、シンポジウム「学習院コレクションとパトロネージュ」を開催。基調講演には彬子女王殿下をお迎えし、本学文学部哲学科教授らにより熱心な議論が交わされました。ギャラリートークは当館学芸員・研究員だけでなく本学教授も担当して全4回開催し、好評を博しました。

展示資料約120点は前後期で大幅に展示替えをし、ドレスや装束は四期に分けて陳列しました。再訪する方も多く、来場者数は過去最高の15,719人を数えました。

(EF共同研究員 戸矢浩子)



テープカットの様子

【リニューアルオープン記念展Ⅱ】

「学習院コレクション 芸術と伝統文化のパトロネージュⅡ ―まだまだ開く玉手箱」

【主催】霞会館記念学習院ミュージアム

【協賛】一般社団法人 霞会館

【会期】令和7年6月23日(月)～8月2日(土)

【休館日】土曜・日曜・祝日・7/14(月)(ただし8/2(土)は開館)

【開館時間】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【入館料】無料

【関連イベント】当館館長・学芸員によるギャラリートーク

日時: 6月26日(木)、7月11日(金)、8月2日(土) 各日14:00～

会場: 霞会館記念学習院ミュージアム特別展示室

*事前申込不要

◎最新情報は右の二次元コードより当館の
公式X(旧Twitter)をご覧ください。



ミュージアム・レター第56号

令和7年(2025)6月20日発行

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

電話 03(5992)1173

FAX 03(5992)9219

KASUMI KAIKAN MEMORIAL

GAKUSHUIN MUSEUM

霞会館記念学習院ミュージアム

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

